

男女共同参画の視点からの“キャリア教育”

自分らしく
輝いて
生きる。



文部科学省

| はじめに |

あなたは自分の進路についてどのように考えていますか。

高校生のあなたにとって進路といえば、卒業後の進学先や就職先を決めることでしょう。間近に迫った人生の選択に頭がいっぱいで、ほかのことを考える余裕などないかもしれません。

このブックレットは、卒業後の進路へ向けて一生懸命走るあなたに、ちょっとだけ立ち止まって考えてもらうために作成しました。深呼吸でもして息を整え、進学や就職のさらに先にある「将来」——結婚や育児などの家庭生活や、地域とのかかわり、社会的な活動などを含んだ生活——について想像してみてください。

生き生きと充実した「将来」を送っている先輩方の姿に触れて思うことは、人によって異なるでしょう。どれが正解ということはありません。大切なのは、自分の視野を広げて新たな角度から自分の生き方を見つめることです。

これを読んで感じたことを周りの人と語り合ってみましょう。気になることやもっと知りたいことができたら、自ら調べて知識を深めていきましょう。

あなたの現在とあなたの将来は「キャリア」としてつながっています。なりたい自分を想像しながら、今できることやすべきことを考えてみましょう。

そう、あなたが「自分らしく輝いて生きる」ために。

Contents

【クイズ編】	ライフイベントクイズに挑戦！	3
【データ編】	進路をより深く考えるために。	4
【ロールモデル編】	◎土木業界で活躍する女性。 松枝 繭さん	6
	◎幼児教育の現場で活躍する男性。 久留島太郎さん	8
	【コラム】介護と仕事の両立に挑戦。 横澤昌典さん	8
	◎管理職として活躍する女性。 今川みどりさん	10
	◎育児休業を取り、育児と地域活動に取り組む男性。 橋 信吾さん	12
	◎地域で活躍する女性。 中橋恵美子さん	14
【参 考】	・もっと調べたい人、考えたい人のために	裏表紙

み なさんは、高校を卒業してから様々なライフイベント(人生の節目に起こる出来事)を経験することになります。ここではライフイベントのうち、「進学・就職」「働くこと」「結婚と家庭」「仕事と子育て」を取り巻く社会の現状について、クイズを通じて考えてみましょう。

進学・就職

【問題】 次の(A)(B)にあてはまる人数は、近年増加傾向にある。○か×か。

(A) 工学分野に入学する女性 (B) 男性看護師

働くこと

【問題】 30歳代の男性のうち、1週間の労働時間が60時間を超えている人の割合は次のうちどれか。

ア. 約20%(5人に1人程度) イ. 約10%(10人に1人程度) ウ. 約5%(20人に1人程度)

結婚と家庭

【問題】 6歳未満の子供がいる夫婦について、夫が家事に費やす時間は、平均で1日あたりどれくらいか。

ア. 約5時間 イ. 約3時間 ウ. 約1時間

※ 家事に費やす時間は「家事」「介護・看護」「育児」「買い物」の合計とする。

仕事と子育て

【問題】 働く女性のうち第1子出産を機に何割の女性が仕事を辞めているか。

ア. 6割 イ. 3割 ウ. 1割



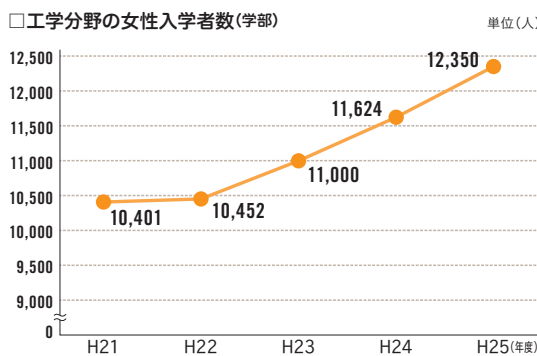
進路をより深く考えるために。ライフイベ

ライフイベントクイズに答えるとき、どんな情報を参考にしましたか？身の周りにいる人や著名人など、誰かの生き方や考え方でしょうか？大切なのは、自分の思い込みだけにとらわれないこと。将来のことを考えるために、社会の現状をデータで見えていきましょう。

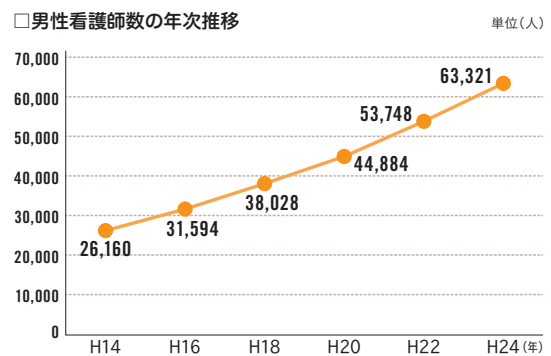
進学・就職

【答え】 (A)、(B)どちらも○

人文科学や薬学・看護学は女性が多く、理学・工学は男性が多いなど、大学(学部)における専攻分野によって男女の偏りがあります。しかし最近では、工学分野の学部に入学者が増えているだけでなく、看護師になる男性も年々増加しているなど、進路選択・職業選択が多様化しています。



※文部科学省「学校基本調査」より作成



※厚生労働省「衛生行政報告例(就業医療関係者の概況)」より作成

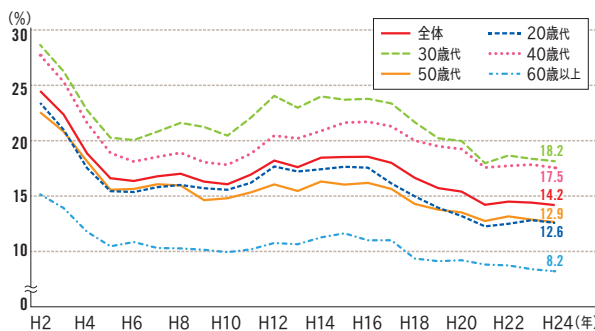
進路選択・職業選択が多様化し、幅広い分野で活躍する人が増えています。将来どんな職業に就きたいのか、どんな分野で働きたいのか。多くの選択肢の中から考えてみましょう。

👉 多様な進路・職業を選択し、活躍している人がいます。詳しくは P6~7、P8~9へ。

働くこと

【答え】 ア (約20%)

週休2日を前提にすると、週60時間以上の労働は、1日あたり12時間以上という長時間労働。一般的に30歳代は子育て期にあたりますが、家庭のことに時間が取れない人も多くいます。



出典)内閣府「男女共同参画白書」

※総務省「労働力調査(基本集計)」より作成

※数値は、非農林業就業者(休業者を除く)総数に占める割合

※平成23年の値は、岩手県、宮城県、福島県を除く全国の結果

私たちに、心身の健康とともに家族・友人と過ごす時間、自己啓発や地域活動への参加のための時間などが必要です。子育てや介護など、社会に出てから起きる変化に応じて、多様で柔軟な働き方ができることが求められています。

👉 工夫をこらし、仕事と生活のバランスをとって生きる人がいます。詳しくは P10~11、P12~13へ。

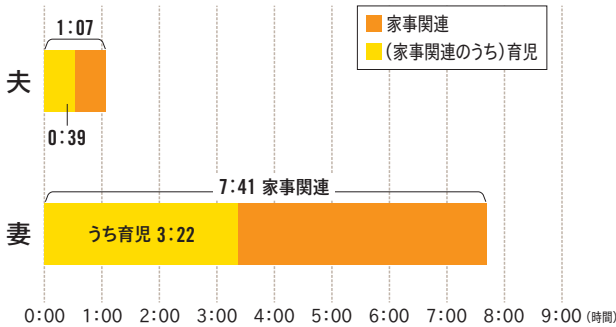
ントを取り巻く現状を見てみましょう。

結婚と家庭

【答え】 ウ (約1時間)

夫の家事時間は1日平均1時間7分で、そのうち育児時間は平均39分。妻の家事時間は平均7時間41分で、そのうち育児時間は平均3時間22分。国際的に見ても、日本の家庭では家事・育児の負担が極端に女性に偏っています。

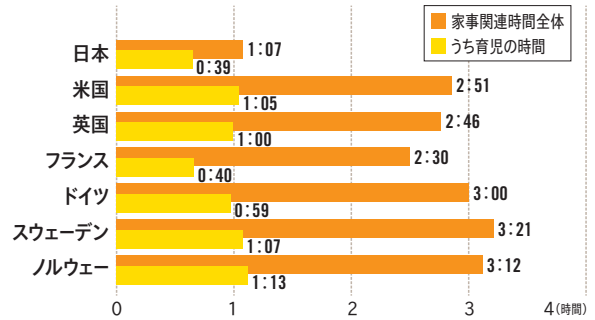
□6歳未満児のいる夫・妻の家事関連時間(1日あたり)



※ 総務省統計局「社会生活基本調査」(平成23年)より作成
 ※ 「家事関連時間」は、「家事」「介護・看護」「育児」「買い物」の合計

□6歳未満児のいる夫の家事・育児関連時間(1日あたり)の国際比較

出典)内閣府「男女共同参画白書」



※ Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men "(2004). Bureau of Labor Statistics of the U.S. "American Time Use Survey"(2011)および総務省「社会生活基本調査」(平成23年)より作成
 ※ 日本の数値は、「夫婦と子供の世帯」に限定した夫の「家事」「介護・看護」「育児」「買い物」の合計時間

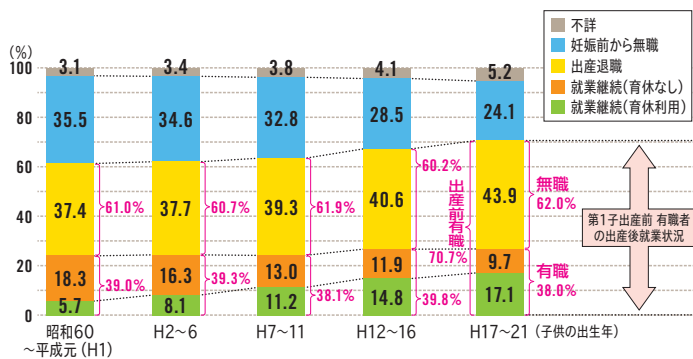
家庭生活を充実させるためには、夫婦が協力して家事や育児を行うことが大切です。夫婦間でどのような役割分担をするのが望ましいでしょうか。また、それを実現するために、自分自身は将来どのような働き方をすべきでしょうか。あなた自身の問題として考えてみましょう。

👉 夫婦で協力して、充実した家庭生活を送る人がいます。詳しくは P6~7、P10~11、P12~13へ。

仕事と子育て

【答え】 ア (6割)

働く女性の6割が第1子出産を機に退職しています。「子育てに専念したい」という自らの意思で辞める人だけでなく、仕事と子育ての両立が難しく、「辞めざるを得ない」と考える女性も多いのが現状。仕事と子育ての両立を支援する制度を上手に利用していくことが必要です。



□子供の出生年別第1子出産前後の妻の就業経歴
 出典)内閣府「男女共同参画白書」

※国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査(夫婦調査)」より作成
 ※第1子が1歳以上15歳未満の子を持つ初婚どうし夫婦について集計
 ※出産前後の就業経歴
 就業継続(育児休業利用)ー妊娠判明時就業~育児休業取得~子供1歳時就業
 就業継続(育休なし)ー妊娠判明時就業~育児休業取得なし~子供1歳時就業
 出産退職ー妊娠判明時就業~子供1歳時無職
 妊娠前から無職ー妊娠判明時無職~子供1歳時無職

結婚や出産後も仕事を続けるか。みなさん一人ひとりが決断していくものです。その決断のときに、心から望む選択ができるよう、今から考えておくことが重要です。

👉 働き続ける選択をした女性もいれば、退職し主婦になった女性もいます。詳しくは P6~7、P10~11、P14~15へ。